



## 令和2年度 東原中学校 学校経営計画

校長 小松 進一

新型コロナウイルス感染拡大防止のために5月6日まで臨時休業措置をとっており、生徒の皆さんや保護者の皆様には大変辛く不安な気持ちを抱きながら生活されていることと思います。一日も早く平常な生活に戻れるよう外出を自粛し、また、感染防止対策をしっかり意識して毎日を送ってほしいと思います。

さて、令和2年度の東原中学校は、入学式が5月（現在のところ5月8日（金）14時開式予定）に延期となってしまいましたが、新入生82名（3学級）を迎え、新2年生75名（2学級）、新3年生86名（3学級）の計243名（8学級）でスタートしました。本校の校風「自由と責任」のもと、良き伝統を継承発展させていく1年間にしたいと思っています。今年度の学校経営計画の概要を掲載いたしますので、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

### ○ 令和2年度 東原中学校 学校経営計画

#### 1 教育目標

自他の生命を尊び、生きる力を身に付けた生徒の育成を目指して、次の目標を掲げます。

- 自主… すすんで学び、自ら考える人になろう
- 感性… 豊かな心を持ち、たくましく生きる人になろう
- 共生… 互いに尊重し、共に高め合う人になろう

#### 2 目指す学校像

- 互いの人格を認め、助け合い、高め合う人間愛にあふれ、規律ある生活が展開される学校。
- 一人一人の学びや知的好奇心を大切に、共に学ぶことが喜びとなる学校。
- 家庭・地域・学校のつながりを重視し、信頼され、安心して生徒を任せられる学校。

#### 3 学校の教育目標を達成するための基本方針

- (1) 「すすんで学び、自ら考える生徒」を育成するために、全教員が新学習指導要領の完全実施に向けて、表現活動を重視した指導方法や授業形態を工夫・改善し実施します。また、ICTを効果的に活用し、生徒一人一人が学ぶことに興味・関心を持ち、主体的に取り組む授業を実践します。
- (2) 生徒一人一人の学習の定着を図るために、授業や放課後等において個に応じた指導を実践します。また、「家庭学習の手引き（案）」を作成・周知し、家庭学習の定着を図ります。
- (3) 「豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒」を育成するために、課題に対する話し合い学習や調べ学習、地域人材を中心とした外部人材を講師とした講演等、多様な教育活動を展開し、自らの生き方を考える機会を設定します。また、「いのちの教育」においても外部講師による授業を実施するなど道徳教育及び人権教育の充実を図ります。
- (4) 「互いを尊重し、共に高め合う生徒」を育成するために、人権教育全体計画及び人権教育年間計画に基づき、人権教育を教育活動全体で推進し、自他の生命の尊重や他者に対する理解を深めます。また、担任以外の教員との面談「ふれあい週間」や学校生活アンケート等を通して、生徒の実態把握に努め、「学校いじめ防止基本方針」や「いじめ対応マニュアル」を踏まえたいじめ防止対策及び対応を組織的に実践するとともに生徒の人権意識を高めます。
- (5) 特別支援教育においては、知的障害のない発達障害又は情緒障害で一部特別な指導を必要とする程度の生徒に対し、特別支援教室において全校体制による個別指導の充実を図ります。
- (6) オリンピック・パラリンピック教育をさらに進め、外部講師を招聘した講演を実施し、学校の特色ある教育活動として位置付けし、学校2020レガシーの構築を実践します。
- (7) 働き方改革の推進では、生徒の18時完全下校や教職員の長期休業日の定時退勤、通知表所見の一部省略、学校行事内容の見直しなど、保護者・地域の皆様の理解を得ながら実施します。

## 4 本年度の具体的な取組（一部抜粋）

### （1）学力・体力の向上の育成を目指して

- ア 教師主導型授業から生徒主導型授業及びICTの効果的な活用授業への転換は、校内研修会においてその必要性を学び研究授業（若手教員を中心として年間5回以上）を実施するとともに実践していきます。10年後、20年後の社会を見つめ、生徒に身に付けさせなければならない資質や能力を授業の中でどのように育成するのか研修し、意識改革を図ります。
- イ 学校は、その教育目的・教育目標を達成するために学習指導要領に基づく教育活動を、意図的かつ計画的に行う場です。生徒が「学び」の糸口をつかみ、自らの「生き方」を考える機会として地域人材（学校支援本部や学校運営協議会と連携）を中心とした各分野の外部講師を招聘し、意図的かつ計画的に講演・授業を実施します。
- ウ 学校司書との連携を生かし、探究型の学習や問題解決的な学習において、学校図書館の豊富な資料・情報の提示及びチーム・ティーチングによる情報活用スキル習得への支援を行うことにより、学ぶ意欲を深化させ、生活全般に活用する態度を養います。
- エ ICT教育の充実と学習意欲を高めるために、年3回の公開授業を実施します。また、デジタル教材を積極的に活用し、学びの充実や意欲化につなげます。
- オ 保健体育科においては、体力・運動能力調査結果を受け、筋力・持久力を高める運動を年間通して継続的に取り組むとともに、外部講師を招聘し学年を越えた健康教育や食育を展開し、総合的な体力の向上を目指します。

### （2）他を思いやり、社会に役立つなど、豊かな人間性の育成を目指して

- ア 生徒一人一人の好ましい人間関係を育成するため、教育相談活動やきめ細かい生徒指導体制を充実させ、生徒一人一人が生き生きと安心して生活できる環境を整えます。
- イ 「生き方を学ぶ講座」では、外部の社会貢献団体と連携し、企業で働く人を講師として招き、社会の構造や社会で働く価値などの職業観の育成に取り組むことにより将来の社会を構築し、豊かに生きる態度の育成を図ります。
- ウ 「生き方を学ぶ教育」活動では、第1学年の震災救援所訓練の参加や全学年による地域清掃の実施など、地域の一員として街づくりに参画することで、他者と協力する態度や進んで参加する態度を育て、ボランティアマインドを育成します。また、ボランティアで組織した儀式的行事準備委員会の活動を一層重視し、生徒の自発性や学校・地域・社会に貢献する心や態度を育成します。
- エ 「特別の教科 道徳」の重点である「考え、議論する道徳」への転換を図り、「自己を見つめる」「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」「人間としての生き方についての考えを深める」の視点を重視した授業を展開し、道徳性を養います。
- オ 自発的・自主的な生徒会活動や学級における係活動・班活動に積極的に取り組ませ、学校や学級の自治力を高めリーダーの育成を図ります。また、問題解決を図ろうとする主体的・実践的な態度を育成し、協力と責任の大切さを体得させます。
- カ オリンピック・パラリンピックの歴史や意義の理解を深め、オリンピックやパラリンピックをはじめとするアスリートを招聘し、講演会及び実技指導や様々なスポーツ体験を実施することにより、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」の5つの資質の育成を図り、学校2020レガシーの構築を実践します。

## 5 特色ある教育活動

- （1）生徒が「学び」の糸口をつかみ、自らの「生き方」を考える機会として、学校支援本部や学校運営協議会と連携し、各分野の地域人材を中心とした外部講師を招聘し、意図的かつ計画的に講演や授業を実施し、講師の生き方を知るとともに自分の生き方を模索するきっかけとします。
- （2）「自由と責任」の校風の中で、伝統であるア・カペラ混声四部合唱による校歌合唱やボランティアで組織した儀式的行事準備委員会に積極的に取り組むなどの伝統を継承し、よりよい校風づくりやボランティアマインドの育成を図ります。
- （3）小中一貫教育では、年間3回の合同研修会及び中学校での小学生体験授業や小学校での小・中学校教員の協働した英語科授業を実施します。また、小中学生が地域清掃活動等に参加するなど交流する活動を実施します。